



[対象]

小・中学校

全教科

科学が好きな子どもを育てる

教育実践 論文募集

2023年度 ソニー子ども科学教育プログラム **小・中学校向け**

「科学が好きな子どもを育てる」ための教育実践と計画を
論文にまとめて応募してみませんか

子どもたちの生き生きとした学びと主体的な探究の姿を通して、個性ある実践、
他校の参考になる取り組みについてまとめた論文を募集しています。
応募いただいた全ての学校に助成などの支援をしています。

受付期間

2023年8月1日(木) ~ 2023年8月31日(金) 15時

審査委員会による審査講評と

ソニー製品を全応募校に



公益財団法人
ソニー教育財団

募集内容

主題

「科学が好きな子どもを育てる」

全教科対象

内容

主題にもとづく教育実践と計画

子どもたちの主体的で生き生きとした学びと科学的な思考をもった探究の姿を通して、個性ある実践、他校の参考になる取り組みについてまとめた論文を募集します。全教科が対象になります。

2022年9月から2023年8月までの実践と、2023年9月から2024年8月末までの計画

2022.9月	2023.4月	2023.9月	2024.8月
2022年9月～2023年8月 までの実践(在任校での実践)		2023年9月～2024年8月末 までの計画	
		8月31日締切	

・記述できる実践は在任校での実践に限ります。
(前任校での実践は対象外です。)

審査の観点

配点割合

60%

教育実践

科学が好きな子ども像

ページ枚数目安: 10～14ページ

貴校が考える「科学が好きな子ども像」と、それを実現するための課題が明確に記載されている

課題解決のために、貴校が独自に考え、工夫している研究構想や手立てが記載されている

「教育実践」において、具体的な「子どもの姿」や「子どもの変容」が実証的に記載されている

授業を中心に、学校全体や地域と連携した「科学が好きな子ども像」に結びつく活動が記載されている

教育計画

教育実践の成果と課題の考察

ページ枚数目安: 5～8ページ

「教育実践の成果と課題とその考察」が子どもの姿を通して明確に記載されている

成果の向上や、課題を達成するための今後の「教育計画」が記載されている

配点割合

40%

連続応募の場合

上記に加え、前年度の課題や計画に対する取り組みや、前年度からの内容の深まりも評価の対象とします。

上位入選候補校については、審査の過程で実践状況の確認のため訪問する場合があります。

助成内容

最優秀校

教育助成金 300万円とソニー製品^{*1}

優秀校

教育助成金 50万円とソニー製品^{*1}

奨励校

教育助成金 10万円とソニー製品^{*2}

子ども科学賞

ソニー製品^{*3}

全応募校に

ソニー製品

審査委員会による
審査講評

^{*1}…4K液晶テレビ、ビデオカメラ、ワイヤレススピーカーなどから1つ。 ^{*2}…ワイヤレススピーカー ^{*3}…CDラジオ、ワイヤレスポータブルスピーカーなどから1つ。
(ソニー製品は2022年度実績です。2023年度は変更になる場合があります。)

ご応募いただく論文および関連情報について、以下の点をあらかじめご理解・ご了承の上、ご応募ください。

論文、学校名、所在地、研究内容などの関連情報は、当財団が、成果の還元、普及や、広報活動のために使用、公開させていただきます。論文を本プログラム以外で使用、公開、出版、掲載等することを希望される場合には、事前に当財団にご連絡の上、許可を得ていただきます。応募情報(論文含む)は、当財団が、本プログラムに関する審査結果の通知、各種行事の案内、その他の連絡・確認のために使用させていただきます。ご応募いただく論文は、関連するすべての権利(本文および使用された写真等にかかる著作権、ならびに上記の当財団による使用等を許諾する権利を含むがこれに限らない)を、応募者が保有しているものに限りします。

募集要領

受付期間 2023年8月1日(火)～2023年8月31日(木) 15時 送信完了分まで

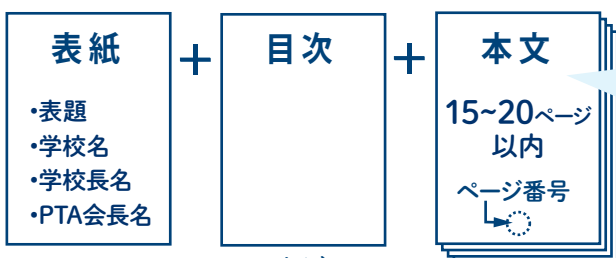
応募資格 国・公・私立の小学校、中学校(特別支援学校等を含む)

- ・義務教育学校、中等教育学校を含みます。
- ・学校全体、あるいは学年・学級・教科部会単位で応募できますが、応募は1校から1件のみです。
- ・2022年度の最優秀校は、今年度は応募できません。

応募方法 当財団ウェブサイトのトップページより論文応募サイトへユーザー登録のうえログインし、応募フォームより論文(PDF)をお送りください。

作成規定

A4 A4判
本文のみページ番号を付記



「本文」について

- 【ページ数】 15～20ページ以内
- 【文字サイズ】 [本文] 10.5ポイント以上
[図表] 8ポイント以上
- 【行間目安】 図表なしで1ページ40行以内となる行間
- 【ページ番号】 本文のみページ番号付記
- 【実践・計画】 教育実践には「年・月」を明記
教育計画には「年度」を明記
- 【参考・引用文献】 本文中に明記
- 【研究代表者名・共同執筆者名】最終ページに明記

作成にあたって

- ・「対象期間内の実践」は在任校での実践に限ります。
- ・すでに他で発表している論文と概ね同じ記述の論文は、審査対象外とします。
- ・過去の応募論文からの転載(文章・写真等)は、減点あるいは審査対象外とします。
これらの転載が必要な場合は、本文中に論文応募時の年度を記載してください。
- ・本文中の図表などで読み取れないものは(サイズが小さい、画像が不鮮明等)は、審査対象外とします。

入選発表

2024年1月中旬以降 ソニー教育財団ウェブサイトにて発表予定。

成果発表

最優秀校と優秀校には、受賞の翌年度に以下の成果発表を行っていただきます。

- 最優秀校
- ・論文の全文公開(写真を含む)
 - ・2024年度に「子ども科学教育研究全国大会」を開催
- 優秀校
- ・論文の全文公開(写真を含む)
 - ・2024年度「子ども科学教育研究全国大会」のポスターセッションにて発表

応募方法



論文をPDFファイルにして、応募フォームよりお送りください。
応募完了後、送信した情報の変更はできません(論文の差し替え含む)。
内容に不備がある場合は受理できません。また、論文は返却しません。

応募フォームは
2023年8月1日公開予定

まずは
ユーザー登録!

論文を応募するには
ユーザー登録が必要です。

登録後の連絡は
メールでお送りします。
必ずご確認ください。
論文送信完了もメールで
ご連絡します。

メールで
連絡します!

応募フォームは
一時保存が可能!

応募フォームは
入力項目が多数あり、
送信に時間がかかります。
早めにご入力を。

科学が好きな子どもを育てる実践に取り組んでいます

2022年度最優秀校



横浜市立白幡小学校（神奈川県）



富士見町立富士見中学校 長野県

2022年度優秀校

福島市立三河台小学校（福島県）
足利市立小俣小学（栃木県）
旭市立干潟中学校（千葉県）
袖ヶ浦市立根形中学校（千葉県）
千葉市立誉田中学校（千葉県）
胎内市立胎内小学校（新潟県）
茅野市立玉川小学校（長野県）
熊本大学教育学部附属小学校（熊本県）
菊陽町立菊陽西小学校（熊本県）

ソニー教育財団の活動 - 60年以上に亘るソニーの教育助成 -

ソニー創業者 井深大は、次世代を担う子どもたちの科学教育の充実のため、1959年に学校への「ソニー理科教育振興資金」の助成活動を開始しました。その後、井深の関心は乳幼児期の教育と人の心を育てることの大切さへと広がり、1969年に「幼児開発協会」を設立しました。井深の志を受け継ぐこれらの事業を継続的に発展させるため「ソニー教育財団」となり、現在はおもに乳幼児期から高校生までの「科学する心を育てる」「科学が好きな子どもを育てる」ことを柱にした教育助成を行っています。不確実な時代を生きる子どもたちが、どのような困難にも好奇心と信念をもって立ち向かい、明るい未来を切り拓いていけるよう、子どもたちの「科学する心」を育む環境づくりを応援しています。



小・中学校の先生への支援



子ども科学教育研究全国大会

学校・個人学校を対象とした「教育実践論文」で最優秀校に選ばれた学校を会場に「子ども科学教育研究全国大会」を開催しています。最優秀校の取り組みを研究発表や授業公開で共有し、また、授業者と語る会やポスターセッションなどを通して、地域や校種を超えて教員同士が交流し、意見交換できる場となっています。未来を支える子どもたちのために日々研鑽を重ねる先生方を支援しています。



トップリーダー育成研修会

「未来を支える子どもたちのために、教育改革に取り組むリーダーを育成する」ことを目的に、中堅の先生方を対象とした研修会を開催しています。多彩な講師陣の教育への想いに触れ、社会人サポーターと一緒に教育と社会を見つめ直すチーム活動を1年間に渡って展開していきます。

子どもたちへの支援

科学への興味を深めるため、ソニーグループの技術者が講師となって行う、小・中学生、高校生を対象にした「ソニーものづくり教室」の開催を支援しています。

乳幼児のための「科学する心」ネットワーク

「科学する心」の視点で乳幼児期の子どもの「ワクワク・ドキドキ」を見つめながら、さまざまな地域の仲間と保育の実践や悩みを共有し合い、学び合う活動を行っています。会員専用Facebookグループでは大勢のメンバーが繋がり、保育について語り合っています。「明日の保育をともに考える」仲間に、あなたもありませんか？

